

2021 年度事業報告書

2022 年 6 月 19 日（日）

公益財団法人 日本動物愛護協会

I. 総 括

本協会は 2012 年（平成 24 年）4 月 1 日をもって、内閣府の認可を得て「公益財団法人日本動物愛護協会」へと改組した。

2021 年度も、環境省並びに各自治体、関係団体、企業等のご理解とご協力のもと、多彩な動物愛護事業の推進に努めてきた。

2021 年度も新型コロナウイルスによる緊急事態宣言等の発出にともないイベントの中止、出勤制限等余儀なくされたが、業務に支障が出ないように職員一同努めた。イベント等の活動ができない分、異業種の企業や団体などとの情報交換、連携を昨年に続き強化させた。

啓発事業については AC ジャパンとの TV・ラジオ CM、新聞広告、交通広告を行い 2021 年度は終生飼養・適正飼養の観点からペットの安易な販売・衝動買い防止の啓発を全国的に行った。小さな命の写真展、和歌山電鐵・JR 山手線を使用した飼い主責任の啓発事業は継続的に展開した。

子供たちに対する動物愛護の啓発は、高校生、中学生に向けた出張授業「動物愛護教室」を行った。

現状継続している、「動物愛護管理法」の趣旨に基づいた普及啓発事業、災害時動物救援事業、顕彰事業、この 3 項の公益目的事業の充実と業務拡大から会員、寄付者、協力者も増加し、充実してきている。

II. 公益目的事業

1. 「動物愛護管理法」の趣旨に基づく普及啓発事業

1) 動物の命を守る活動

①電話相談・メール相談

2021 年度も全国から動物に関わる電話やメールによる相談・問合せが多数寄せられ、職員 3 名にて対応した。コロナ禍で対応時間の短縮により、電話相談は 1,515 件と前年とほぼ同数、メール相談は事務対応が中心の 282 件が寄せられ、内訳は別紙資料のとおりである。長寿表彰の問い合わせが急増、また飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用助成金に関しても、更なる広がりを見せ、全国からの問合せが後を絶たない。

電話相談ではペットショップやブリーダーからの購入に関してのトラブルや動物愛護団体や譲渡に関するトラブルが多く寄せられた。またメール相談では SNS 上での動物虐待を心配する通報が多く寄せられた。

多くの遺贈や寄付のご相談をいただき、長引くコロナ禍から動物たちを心配する声が多く届いた。

②譲渡事業等

2020 年度に続き、新型コロナウイルスの影響により、譲渡活動は皆無に等しい状態となった。その中で譲渡希望の相談者に対してはボランティア（個人・団体）を通して、譲渡を推進した。

株式会社レティシアンからの支援フード先を仲介する中で、全国の動物愛護センターや動物愛護団体等と関係・協力体制構築に努めた。

コロナ禍で譲渡会が中止・規模縮小する中、ボランティア（個人・団体）の元には行き場を失くした動物たちが増えている現状があるため、本協会に届く個人からの物資寄付（フードや消耗品等）、また株式会社フェニックス・アインツェルよりご支援いただく消耗品（うんち処理袋やウェットティッシュ等）を全国のボランティア（個人・団体）へ支援した。

③普及啓発事業等

2021 年度も飼い主に必要な 10 の条件のポスターを、希望する全国の小中学校、高等学校へ配布した。光村図書出版発行、中学道徳教科書「きみがいちばんひかるとき」にこのポスターが採用されていることにより、子どもたちに対する動物愛護の啓発に役に立った。

また、2021 年度も新型コロナウイルスの影響により軒並みイベントが中止となる中、希望する中学校、高等学校で「動物愛護教室」を開催した。

④飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用助成事業

「今を生きている命は大切に、不幸な命は生み出さない」をスローガンに、6 年目となる今年度も飼い主のいない猫を対象とした不妊去勢手術費用助成事業を行った。殺処分される動物の大半が猫のため、不幸な猫を生み出さないためにも、この事業は継続していくことが不可欠であると同時に、思い切った施策も検討していく必要がある。

また、2021 年度も第 2 弾 JSPCA『猫の日』企画「飼い主のいない猫応援キャンペーン」と称し、コロナ禍で活動する全国のボランティア（個人・団体含）に向け、日頃 JSPCA をご支援してくださる方々のお気持ちを支援物資という形に変え、思いを込めてお届けした。

⑤他団体・他業種との協力

日本気象協会との協働も 3 年目となり、2021 年度も「ペットの熱中症対策マニュアル 2021」を作成し、全国の動物病院を中心に約 50,000 枚を配布した。

また、自治体等が設置する委員会・協議会等への委員派遣については、田畑理事長を東京都動物愛護管理審議会へ、廣瀬常任理事・事務局長を東京都動物愛護推進協議会、東京都動物愛護マイクロチップポスター選定委員会、東京都動物教室及び研修企画選定委員会に派遣した。

AIPO＝動物 ID 普及推進会議は、動物愛護の公益 3 団体と（公社）日本獣医師会にて構成し、動物の所有に関する個体識別を明示する措置であるマイクロチップの普及推進に努めた。

2) 人と動物のための社会への提言活動

①動物愛護キャッチコピーコンクール

第22回動物愛護キャッチコピーコンクールは、環境省の後援を得て、動物愛護週間中央行事のキーワード、「私たちがつくるペットとのこれから」と連動させて募集した。

全国から総数179作品が寄せられた。厳正な審査の結果、環境大臣賞（最優秀賞）には、「ありますか？命あずかる その覚悟」が選ばれた。

②動物愛護週間ポスターのデザイン絵画コンクール

動物愛護週間中央行事の一環として、環境省より委託を受けて開催した。「私たちがつくるペットとのこれから」をテーマに募集した。全国の教育委員会、私立小中高等学校へ募集案内を発送し255件の応募があった。厳正な審査のもと、最優秀賞1点、優秀賞5点を選定した。最優秀作品は、動物愛護週間ポスターとして採用され、環境省より全国の自治体等に配布された。

③各種啓発事業

多くの方に動物愛護週間を知ってもらうため、9月20日～9月26日までJR山手線新型車両「まど上チャンネル」を使って、飼い主責任を訴え、広く一般の目に留まるよう啓発を行った。

和歌山電鉄での動物愛護のラッピング電車は、2021年度も継続して走行しており地域の住民、子どもたち、観光客への啓発に役立っている。

2019年度の「にゃんぱく宣言」、2020年度の「犯罪者のセリフ」に続き2021年度はTVCM、ラジオCM、新聞広告、交通広告を使ったペットの安易な販売・衝動買い防止の啓発「一目惚れ」を全国に向けて発信した。コロナ禍で動物に癒しを求める人が増えたこともあり、絶好のタイミングで啓発をすることに役立った。またこのポスターを全国の希望者に配布し、啓発の輪を広げることに成功した。

④情報発信

ウェブサイト上で人と動物の共生社会構築に向けた内容を充実させ、事業系、里親系二つのフェイスブックを活用し、協会情報、啓発、後援事業、新しい家族を探す活動の情報、長寿表彰等を随時発信した。事業系情報49回、新しい家族探し・長寿表彰系53回、その他HPでの情報発信12回、合計114回の情報発信を行った。

⑤健全な動物観、生命観のためのメディア対応

本協会の活動・主張、動物愛護週間についてなどを、各メディアに対して発信を行った。

⑥動物愛護週間中央行事・その他イベント出展・後援

動物愛護週間中央行事実行委員会（実行委員長：本協会 田畑理事長）の中心となり、環境省、東京都、台東区、主要な動物愛護団体等が一体となって開催する動物愛護週間中央行事の実行委員会事務局を担い、企画・運営・実施の行事全般にわたる調整ならびに運営を行った。残念ながら2021年度も新型コロナウイルス感染予防の点から屋外行事は中止、屋内行事はオンライン配信とした。

本年度は、「私たちがつくるペットとのこれから」をテーマに、台東区生涯学習センターミレニアムホールで開催した。

表彰式、著名な講師陣を招いて、テーマに関連した講演会やパネルディスカッション、を行った。

他団体の開催するイベントも軒並み中止となったが、開催するものに関しては協力し、参加ができない分、資料の配布などを行い協会の活動をアピールした。

⑦相談事例分析

相談電話・メールの統計調査について統計調査を継続している。加えて2021年度は不妊去勢事業の申請者からのアンケート調査を実施、分析を行い、何が困っているのかをリサーチし支援物資の配布に役立てた。

3) 命の大切さを知ってもらう活動

① 動物愛護講座

地方自治体（杉並区）との講座は2021年度も新型コロナウイルスの影響により中止とした。

② 家庭教育、青少年教育

2021年度は啓発冊子も第4弾「本当に飼えるかな？」を作成した。

本年度も全国の小学校、中学校、動物愛護団体、動物愛護活動家へ、写真展パネルの貸し出し、飼い主に必要な10の条件のポスター、啓発冊子を、全国の教育委員会、全国の私立小学校・中学校・高等学校、約2,500校へ配布した。

③ 中高生教室・動物愛護教室

総合的な学習の一環として、本協会での研修を希望する中高生を主な対象として、「動物愛護教室」を開催し、動物たちの置かれている現状や、動物を飼うために必要なことなど基本的な事項について考える機会を提供している。

2021年度は希望する中学校、高等学校を訪問し、「動物愛護教室」を開催し一部オンラインでも配信を行った。

④ 会員・寄付者拡大事業

TVCM や、ウェブサイトを中心に本協会の基本方針、動物愛護、里親事業、青少年への動物愛護教育等への取り組みをアピールし、入会者の拡大に努めた。その結果、新規入会者は横ばいだが、寄付者の総件数が2,863件と大幅に伸びる結果となった。

⑤ 賛助会員事業・広報誌「動物たち」発行

「JSPCA Special Day」は2021年度の開催は新型コロナウイルスの影響により中止とした。

広報誌「動物たち」は年4回発行し、事務局が編集部となり動物に関する旬な話題、協会の活動内容などを読者に伝え、内容を充実させた。

2. 災害時動物救援事業

地震・噴火・台風等の自然災害発生に際しては、被災地の動物愛護管理行政部門並びに関係団体と連携を

図り、動物の救援活動を実施する体制を整えた。

併せて、ペットフード、ペット用品等の動物のケアに必要な物資については(一社)ペットフード協会、(一社)日本ペット用品工業会、(一社)全国ペットフード・用品卸商協会、(一社)日本ペットサロン協会で構成される「ペット災害支援協議会」と連携を取りながら支援要請に応えることとした。

また、本協会独自の取り組みとして日本気象協会の「トクする！防災プロジェクト」のコンテンツ作成に参加、監修という形で協力し、ペットの防災についてネット上に公開している。

3. 顕彰事業

①長寿動物表彰

2021年度は、過去最高、前年度の3倍を超える2,000件近い申請があった。飼い主からの申請に基づき、長寿動物として無料で表彰し、飼い犬・飼い猫の写真入りの賞状を贈呈する。

表彰を受けた飼い主からは多数感謝の言葉、ご寄付を頂き、その後、会員へ移行する方も多い。表彰月末にはフェイスブックで紹介し、広報誌「動物たち」4月号では年間の表彰動物一覧を掲載し、大変好評を得ている。

2021年度は、犬1,228頭、猫761頭、合計1,989頭の表彰を行った。最高年齢は表彰時、犬は22歳(柴犬)、猫は26歳(MIX)であった。犬猫が長寿を迎えるということは、動物たちが適切に飼養されていることの証ととらえることができ、人と動物との共生社会、動物の福祉が適切に進んでいる裏付けともいえる。この顕彰を続けていくことにより、適正飼養・終生飼養を広く啓発していく。

②動物愛護表彰

2021年度の該当はなし。

Ⅲ. 法人運営

会議開催

2021年度における会議の開催は、通常理事会2回、定時評議員会1回、監査会1回であった。

また、本協会の円滑な運営を図るため、常務会(執行役員会)は13回開催した。